黨實記(其意) 2 黑 黑

**表** 長詩篇

## 黑黑

## 表

(長詩篇)

裏の裏を凝視める! 先づ墓表の裏を見る!

鐵

何處へ行く?

(-)

When, Where, Who,—What! Nihilistic—Nothing.

1

『大さん』は其の社の留守番だつた『鐡』は北海道へ漂泊れて行く途中だつた『後藤』は高崎の監獄から出て來たばかりだつた蓮田の『小作人社』の奥の間だつた

『大さん』は武藏野が好きだこ言つた。『鐵』は箱根の長尾峠の墜道が好いこ言つた『後藤』は日光の杉並木の道が好いこ言つた

『大さん』は沈默つて眼鏡の曇りを拭いた『鐡』は日本の話をした『平公』は露西亞の話をした『平公』は露西亞の話をした

『大さん』は梨を嚙つて居た『鍼』は黒ビールを呻つて居た『椋』は林檎をバクッィて居た『杉』は林檎をバクッィて居た『杉』は林檎をバクッィて居た

『鐵』は朝鮮芝居の樂屋へ潜り込んで行つた『久さん』は漢江へスケートミ魚釣を見に出掛けた京城の裏長屋を借りて住んで居た髯の凍る冬の晨だつた

8

朝鮮の夜は重苦しかつた 三人は其の日の收穫を語り合つた アンカは有つた オンドロは無かつたが

獨り隅つこに蹲踞つて居た 制服の金ボタンをォーバの下から覗かせて沈默つて居た テンデに唸つたり喚いたり怒鳴つたり長髪で眼鏡の『大さん』は 神田錦町の豚箱の中 社會主義同盟第壹回大會の夜

10

後に共産黨の宣傳部長ミかに化つた男を同じ早稻田の森に巢立つ鳥だが こケイベッして居た 「大さん」は何時も ー彼奴は梟たー

鵠沼で知己の書寮を預つて居た頃のこつだ マルクスの飜譯物を九卷牛肉ミ馬鈴薯に換へるここを主張した トルストイの畵譜や日本西教史等を『鐡』が六一へ運ぶのを見て 『大さん』は默首いて微笑を洩らした或る時『大さん』は自ら進んで 『鐵』は無論共鳴して直ぐ運んだ

藤澤の町を散歩した 『大さん』の足は遊行寺へ向いた 『鐵』の足は遊廓へ向いた

案内人が引返して迎へに來るまで二人は闇の中に凝乎ミ瞳を痼らした蠟燭が燃え盡きた 江の島の洞窟は兩人共好きだつた

千束町に間借りして居た頃のこつだ 『大さん』は一週間に朝日を一つ吹いた『鐵』はエアシップを一日に三つ吸つた 金の有る時の話だー しるここおでんに舌鼓打つた 『大さん』は獨りで其の間 『鐵』ミ『康ちやん』ミは二十六日打つ通して毎晩淫賣を求食り續けた

和洋のチャンボン酒が殊に好きだつたタマに呻れば一升でも二升でも平氣だつた 『大さん』は滅多に呑まなかつた『鐡』の梯子酒は睡れば醒めた

『大さん』は onauie さへも求めなかつた 『鐵』 三『大さん』 は足掛け四年同棲した

時々鐵にだけ漏らした しるこよりも辛い物に違ひない 女は鹽鮭よりも甘く

(加みごろのコマギレだ)

1 ざ徃 か ん焉

大さ んに駿る

俺は東方を凝視めて居た 四角の旻天は暮れて往く 鐵の格子は經度か緯度か 東半球は黄昏れて行く 一千九百二十五年九月拾日

黑い翼が舞ひ飛び込んだ XXXXXXXXX

噫矣!

同志よ! 露は一滴も零れない 俺の眼頭は炎に輝く 而も心裡は冷く涸れて

苦笑―微苦笑―黑い微笑―― 遣り居つたなア!

2

別れなければならなかつたね! すさん! 大さん! 大さん! 大さん! 大さん!

漸く工面して再び逢へたかミ憶へば事情は無情に獄吏よりも凄く、三度容赦なく俺達を雕して了ふ 恰度許されない戀人の樣に 待ちー待つ―待ち憔がれる

7

『……………………』『あ、!では大さんも充分、身體に氣を附けて待つて、くれ!『あ、!では大さんも充分、身體に氣を附けて待つて、くれ!『魏君!無理をしないやうにね!』

兩人の握手は闇に燃えて居た岩い熖を凍らすここは出來なかつた山手の嵐の嚴しい餘寒も北面山から襲つて來る

さうして死別にならうこは?あれが生別であらうこは?

『何んだ?大さん』 三答へる 『鐡君!』ミ呼ばるれば

『何んだい?鐵君!』ミー 「大さん!」ミ呼べば [-----J

**俺達は何も持ち合さなかつたね!** 夫れ以上語る言葉を 兩人の間ではそれで充分だつたね! 皆目解らなかつたにせよ! 縦令言外の意味が他の誰にも 何時もそれ以上語る必要はなかつたね!

俺の『ノウ』は君の『ノウ』――君の『イエス』は俺の『イエス』

これ以上の信があるなら見せてくれ! 同志よ!

これ以上の愛があるなら聞かせてくれ!

同志以上の同志を有つこいぶこここは、XXXのハシクレの俺にこつて 而も沈毅な勇敢な 信愛の深い聰明な **俺達は『眞』の愛人同志だつたのだ!** 俺達は『信』の兄弟だつた!

これ以上恵まれた特権が有つたらうか!

畏らく兩人の生命も 俺達の間には他人であつた! 國籍なんか要らなかつた! 何時でも頭から家を捨て、居た! 無論!無國境だ! 兩人が一緒に居る時は

大杉が俺に言つたここがあつたけ 真底から理解し合つた同志を得たなら、其の時こそ味のある運動を始めるこつだ! 唯の一人でい、から たつた一人! 吃度現れが見れるだらう!

クロボトキンの同志

ステプニアクが言つたやう

こいふ響を立てた尊い一瞬を持つて居るものだ!
★★★は営其の生涯の間に於て夫れ自身は大した事でもない、何等かの事情で★★の爲めに進んで一身を献ける

その尊い瞬間の連鎖を

お目にブラ下つたその上で何ミか鳧を着けて遣るから! **俺達兩人が無言の裡に持つて居ることを、否定し得る天があるなら墜落ちて來い!** 

骨の髓からのニヒリストだつた!! 思らく女の膚の味を知らなかつた!!

其の他に何も言ふ事は無い!!

**最愛の戀人?を失くした沈むや惜し氣もなく抛け棄てた眞情や卒業間際に大學の科程を卒業間際に大學の科程を** 

一一計へ舉け度くは無い!

追憶は叉新しく追憶を生む!追憶は追憶を産み育みだが今俺の冷い心理の裏に

X

権の想念は 「一足獣は闘はなければ生きられないか!」 一足獣は闘はなければ生きられないか!! 「一足獣は闘はなければ生きられないか!! を達は人間でありにかつたのだ!

ふミ法廷の渦巻の中に漂ふ!

桝に量られた空氣なんかに量られた空氣なんかです。極には不向きのやうだ!をうも俺には不向きのやうだ!

お前は神を追つかけてるのか? (権)大なる正義よ! (権)大なる正義よ! (本)なる正義よ!

俺は何代ろ臆劫だつた!

何故にバクウニンやクロポトキンみたいに 俺も滅縮しちまつたのかなア? 俺は四ン這ひになつて其處邊中跳ね廻つて誰にでも咬みついてやりたかつた! 俺は二足獸を廢業したかつた! ナポレオンやカイザアみたいに 俺は思つだなア

冷く靜かに眺めて居たのだ! 命運の骸子の目の轉んで行くのを 他の心理は伸びも縮みもしちや居なかつた! 所が如何だ! 伸長して飛び出せないのかなア?

×××××x 裁き

國境を超えて世界を獲へ!後に至る者達よ!

總ては秋だァ!

成る樣に成るのだア!成る樣に爲るのだア!

今判乎ミその映像の中に瞠た! 偽らぬ俺の想念の反射を 灰色の壁に冷く刻まれた俺自身の浮彫―

★★!

此の寂寞は何處から湧くのか!? 些の悔ゆる所も無い筈だァ! 些の悔ゆる所も無い筈だァ! 嗚呼!

其の正反對だア!
まの信念は世に容れられるのが當然だア!
はでるここが厚ければだけそれだけ

**其の寂寥は口に表れ難いものだなァ!動搖するこミは無いにしても暗信の核心は益々固く** 

積極的希望の一切を有つ! が数望は決して滅亡ぢやないぞ! が2は決して滅亡ぢやないぞ! ががですれば却つて真簡の 極に至れば却つて真簡の

職沼の家で吹雪の夜 職人は同じ枕に語つたね 「釋迦や老子や 「釋迦や老子や 真如だこか 無抵抗だこか 自我だこか 無抵抗だこか をんちやらお可笑いや!ふふふ」

口で誓つたつて何になる? てんな事は彼奴等に委せごけば

をれでい、んだア! 全れでい、んだア! 全くだア! 全くだア!

遣りさへすればーー

特權の獲得にのみ腐心しないか? 共同戰線を崩壞しはしないか? 真の民衆は族色に賴よつて

誤魔化される民衆も居ないこいふか?裏切る指導者は居ないこいふか?

だが信念質に明るく寂しい!

これこそXXXXX一途か! 迸り出づる真力の堆積! 寂寞の底に湧き漲る力は全く貸く强いぞ!

見ろ!

寧樂の都の嫩草山は 新芽は春に萠黄出づる―― 新芽は春に萠黄出づる――

はつは、これやく!

闇も來い! だァ! だァ!

(未完)